

POM²ステッカーで地雷除去キャンペーン

タイ・カンボジアにおける地雷原調査

総合政策学部 2 年 長峯ゆりか

1.活動の日時・場所・参加者

日時：2013 年 9 月 4 日～18 日

場所：タイ（ウボンラチャタニー県）、カンボジア（バタンバン州、タサエンコミューン）

参加者：香川佳広、今村和人、畝川知紗、杉浦未来、宮地茉萌、長峯ゆりか、菅原奈津子、松浦麻衣子、山崎理沙（計 9 名）

※ 平山雄二、井上涼の 2 名は、参加予定であったが体調不良等の事情により不参加。

※ 香川佳広、菅原奈津子、松浦麻衣子、山崎理沙、杉浦未来の 5 名はタイの現地調査のみ参加。

2.活動の概要と目的

POM²は「The Problem Of Mines is the Problem Of Mine.（地雷問題は、私たちの問題だ。）」という基本理念のもと、ステッカーのシリアルナンバーと地図をリンクさせた独自の寄付システムを構築し、現地 NGO の地雷除去活動の支援を行っている学生団体です。

今回の現地調査の目的は大きく 3 つあります。まず POM²ステッカーで地雷除去キャンペーンの支援先であるタイの地雷除去団体 PRO (Peace Road Organization) を訪れ、寄付金が地雷除去費として適切に使われているかを確認すること。次に、カンボジアの国際地雷処理・地域復興支援の会 (IMCCD) を訪問し、地雷除去から復興に至るプロセスを取材すること。最後に、今回現地を訪れる POM² のメンバーの活動に対するモチベーション向上です。

4.活動の成果

[1]PRO のプロジェクトの理解と現状把握

今回のタイのウボンラチャタニーでの PRO 訪問では、PRO が行っているプロジェクトの推進手法をより詳細に知ることができました。また、PRO が実際に地雷探知作業を行っている現場に同行させてもらい、ベースキャンプからどのように探知活動を行っていくのか、流れに沿ってデモンストレーションを見せていただきました。これらのことにより、ステッカーを購入してくださる日本の寄付者に対して、PRO の活動と現地の情報をより正確に発信できるようになりました。なお今年度の寄付金の領収書は現地で入手しています。

[2]カンボジア、タサエン地域の地雷処理と復興状況の把握

カンボジア、バタンバン州のタサエンコミューンで活動している IMCCD の現地拠点を訪問し、現場での地雷の状況を知るとともに、実際に地雷の爆破処理を見学させていただきました。このことを通して、初めて訪問する IMCCD の地雷除去活動がどのように行

われているかを知り、またタイでの PRO の活動と比較をすることができました。

とくに今回の調査で重点を置いた復興のプロセスについて、カンボジアでは有益な情報を得ることができました。去年まで地雷原だった場所が一面キャッサバ畑になっていたり、学校が建設されていたりと、除去後の土地の活用がなされ、地域振興に地雷処理が役立っていることを確認できました。

[3]POM²メンバー内の意識共有

タイおよびカンボジアで地雷問題の現場に足を運んで実情に触れ、さらに毎晩ミーティングをもったことで、メンバー間に活動に対する意識の向上が見られました。自分たちが何の問題に取り組んでいるのか、そもそも何のために活動しているのか、地雷問題に対して自分たちには何ができるのか、地雷問題の現場を見て語りあうことでそれぞれ深く考え、POM²の活動を見直し、今後の活動方針につなげる機会となりました。



[左：PRO と POM²の集合写真 右：IMCCD と POM²の集合写真]

[4]映像資料の獲得

追加の成果としてあげたいのは、今回、タイおよびカンボジアでの現地調査の様子を、映像資料として収録できたことです。プロジェクトの説明や地雷除去のデモンストレーション、爆破処理など、現地で得てきた情報を映像記録として残すことができました。現地に行く機会の少ない関係者に活動の様子を伝えたり、今後、支援者、協力者を拡大していく上でも有効な資料として活用できるでしょう。

5.謝辞

今回タイ・カンボジアにおける地雷原調査を行う際、現地でサポートをしてくださった PRO、IMCCD の皆さまの御陰で安全に現地調査を行うことができました。また、指導してくださった櫻田周三先生、助成金をいただいた湘南藤沢学会に厚く御礼申し上げます。